

第24期 第1回 八尾市図書館協議会 会議概要

日 時 令和6年7月25日(木)  
15時00分～16時30分  
場 所 八尾市立青少年センター集会室

出席者(敬称略)

稲垣 房子 (元奈良大学 教授)  
江岡 信行 (八尾市青少年育成連絡協議会)  
近松 真定 (八尾市PTA協議会)  
嶋田 学 (京都橘大学 教授)  
川窪 和子 (大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 図書館 副館長)  
戸倉 信昭 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)  
高田 正史郎 (八尾市地区福祉委員長連絡協議会)  
鈴木 縁 (公募市民委員)

欠席者(敬称略)

坂本 篤史 (八尾市校長会)  
二宮 久子 (八尾市社会教育委員会議)

事務局

浦上 弘明 (教育長)  
太田 浩子 (教育委員会事務局副教育長)  
辻内 文子 (教育委員会事務局次長)  
永澤 行彦 (生涯学習課長)  
上原 康男 (生涯学習課長補佐兼八尾図書館資料係長)  
奥田 真美 (八尾図書館長)  
浅田 耕司 (山本図書館長)  
吉岡 雅之 (志紀図書館長)  
鶴田 洋介 (八尾図書館主幹)  
仲谷 智子 (八尾図書館利用サービス係長)  
駒城 太士 (八尾図書館資料係長)  
山口 みどり (八尾図書館司書)  
松井 律子 (山本図書館司書)  
鈴木 温美 (志紀図書館司書)  
川元 翔 (龍華図書館長：指定管理者)  
長谷川 麻優子 (龍華図書館長補佐：指定管理者)

- 1 教育長挨拶
- 2 会長・副会長選出
- 3 会長挨拶
- 4 議題

(1) 図書館の事業報告について

① 令和5年度（2023年度）図書館年報について（資料1）

会 長：新しく24期に入ったので、各委員の八尾市での活動状況、所属団体等での状況、図書館運営について関心が高いものがあれば、各委員からご説明願う。

委 員：八尾市青少年育成連絡協議会で活動している。年々、子ども会に入る子どもの人数が減っている。就学前児童については、イベントなども図書館によって色々あり、親子でよく利用されているが、就学後の児童は少なくなっていると認識している。

委 員：PTA活動としては、子ども達が元気よく伸び伸びと育ってくれるようお願い活動している。子ども達がどういう問題を抱えているのか、学校行事を楽しめているかなど、先生方と保護者が情報共有し、協力して、子ども達の力になろうと活動している。

委 員：2019年までは公共図書館の職員をしていた。八尾市の司書を通じて25年ぐらいのおつき合いになり、八尾市の図書館には親近感を感じている。  
最近気になっているのは人の問題。図書館では非正規職員の割合が高くなっている。また、学校図書館についても非常に関心がある。

委 員：大学図書館で勤務し、教員としても、司書及び司書教諭課程の科目を担当している。公共図書館勤務時代の平成29年から31年に八尾市図書館協議会委員を受嘱していた。  
指定管理者の自主事業として導入された八尾市電子図書館や学校図書館との物流便の現状について関心がある。

委 員：図書館や小学校で読み聞かせのボランティアなどをしており、子ども達の聴く力、想像力には感動させられるぐらい、しっかりと話を聞いてくれる。  
学校図書館に関しては、司書が正規職員として採用されればと思う。  
また、難聴の子どもをサポートをやっているが、障がいのある子ども達に対する理解を深めるため、絵本もたくさん出ているので、学校図書に加えていただきたい。

委 員：小・中学校の校長先生と話す機会があり、最近の子ども達の状況を聞くと、図書館で本を読むよりもスマホを見ているとのこと。読書の大切さは経験してみても分かると思う。自分の地区では、移動図書館の利用者が少なく、子どもが集まる場所に移動図書館のパンフレットを配架してもらい、子ども達に声かけした結果、友達を誘い合って本を借りるようになってきた。少しでも利用者が増えて行けば良いこと。

委 員：大阪市立中央図書館で利用サービス担当課長として、図書館サービス全体を統括する業務をしている。図書館キャリアの中で教育委員会の本庁業務に携わったことがあり、図書館と他の施設、行政各部局や学校がどのように繋がっていくのかに大きな関心を持っている。私の仕事上での経験で、少しでもお役に立てる話があれば、折に触れてご紹介できれば良いと思う。

会 長：委員の皆さんの図書館に関する思い子ども達に対して気になっている状況について、気持ちがすごく伝わってきた。特に学校図書館との連携が大切ということ。また、学齢期、特に中・高校生になると、読書時間が短くなるのは全国的な状況である。そこを地域の力で何とかという思いがある。

また、八尾市では自動車文庫を大切にしているので、そのあたりも含めてご発言頂きたい。図書館年報についても質問があれば、ご発言願う。

委員：学校貸出と団体貸出の違いについて教えて欲しい。また、独自物流はあるのか。

事務局：学校貸出は、学校を単位として1年間貸し出しするものである。団体貸出は、クラス単位、学年単位や調べ学習等で必要な資料を1か月単位で貸出しているものである。独自物流としては、学校貸出については、年度当初に八尾図書館から各学校に公用車で配送している。団体貸出については、放課後児童室へは、移動図書館車の巡回時に持って行くこともあるが、団体から借りに来て頂く場合もある。

委員：大阪府域でも、独自便が多くなって来ている。大阪市でも、調べ学習等に対応するため年間を通じた物流の確保により貸出冊数が飛躍的に伸びた実績がある。

委員：電子図書館利用統計での、ログイン数、閲覧数、貸出数について説明して頂きたい。

事務局：ログイン数とは、電子図書館にIDとパスワードを入力してログインした回数である。本を借りなくとも、ログインした段階でカウントされる数字である。貸出数については、「借りる」ボタンを押した回数が貸出数になる。閲覧数については、昨年から読み放題パックを導入したが、貸出をしなくても読める読み放題パック、実際にログインしなくても読める独自資料を含めて、「読む」というボタンを押して、実際に資料を見た回数が閲覧数ということになる。

会長：電子図書館の年齢層別の利用統計は分かるか。

事務局：本日の資料に掲載はないが、電子図書館に関しては、30代、40代、50代の利用者が基本的には多い傾向。また、昨年、読み放題パックを導入し、IDを小・中学校に配付してから学校の利用も格段に増えており、閲覧数が増えた大きな要因ではないかと考えている。

会長：月別統計を見ると、11月に大きく増えているが、そういう理由によるものか。

事務局：お見込みのとおりである。

## ② 龍華図書館の事業実績及び計画

委員：議論の進め方だが、できるだけ委員の意見聴取に時間を割いてもらいたい。基本的には、資料全般の説明を省き、すぐに質疑に入る形で如何かと思う。多くの自治体において事前に資料送付し、協議会当日は直ぐに質疑応答というスタイルに変わってきている。まず、資料の不明点の解消から始め、その後に意見交換を行えば、スムーズに進行可能と思う。

委員：資料説明については、すべての項目を説明するのではなく、焦点化して進めて行く方が有益な時間が送れるのではないかと思う。

会長：議事の進め方については、私の方で責任を持って事務局と協議し、次回からは、効率的な議事の進行を図る方向で預らせて頂く。

委員：龍華図書館の事業報告書において、電子書籍利活用促進を挙げており、他の市立図書館には掲載がないが、指定管理者の自主事業という理解なのか。

事務局：令和4年度に指定管理者の選定を行い、令和5年度からも引き続き（株）図書館流通センターが龍華図書館の運営を行っているが、自主事業という枠組みではなく、提案事業として指定管理委託料の中で八尾市電子図書館の運営をしている。

委員：コンテンツは買い取りか。

事務局：コンテンツに関しては買い取りの部分もあるが、回数制限のあるものなどもある。

委員：指定管理者が変わる等の場合、買い取りのコンテンツはどうなるのか。

事務局：TRC-DLの利用が継続できれば利用できると思うが、次の指定管理者の選定で事業者が変われば違う形になる可能性がある。現時点で今後の契約に関することはお答えできない状況である。

会長：指定管理者の収支計画書の中で、電子図書館の費用は使用・賃借費に計上されているのか。

事務局：お見込みのとおりである。

委員：電子図書館はスマホからでも見やすく、読み上げ機能もあり、マルチメディア・デジタルのようなかたちでも使えるなどそのコンテンツの充実豊富化は評価しているが、その後のことが気になったので質問した。

会長：各委員の意見として、障がいのある子ども達へのサポートの充実等の意見があった。また、非正規職員の率が高いという指摘についても、すぐに答えられる問題ではないが、全国的な課題となっている。

### ③ 令和4年度大阪府内公共図書館奉仕概況抜粋

委員：施策の方向性と連動して説明があれば、より理解しやすいと率直に感じた。

事務局：中核市との比較で実質登録率の向上について、特に課題認識している。

令和5年度は利用状況がなかなか回復しなかった。今まで利用されていない方に利用していただくことで、裾野を広げていきたいと考えている。

以上